

---

# 少女、ファイト！

橘高 有紀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

少女、ファイト！

### 【Nコード】

N5379T

### 【作者名】

橘高 有紀

### 【あらすじ】

可愛い女の子への道は、長く険しいものなのだ。

うちの母親はとてものがさつな人だ。女性らしい一面が皆無とは言わないが、繊細という言葉がとことん似合わない。裁縫や料理に凝ったものはないし、文字も声も無駄にでかかど男らしい。子どもと遊ぶときだつてサッカーや野球をしたがるという、男親つぶりだ。そんな親に育てられたのだ。多少男っぽくても仕方ないと思わないだろうか。例えば料理が壊滅的なまでに下手で、クッキーもまともに作れず、ミシンを使わせれば糸も通せないという不器用MAXであっても……仕方ないと、思つてはくれないだろうか！

「頼もう！」と放課後、勢いよく隣の教室に飛び込んだ。

開口一番、意中の相手、佳久は「不合格！」と言つた。ぽかんとなつた。まだ何も言つてないじゃん！何が不合格なの、と詰め寄ると「格好からしてアウトだろ」とけんもほろろもない返事。確かに女の子っぽさゼロで突撃したこつちも悪かつた。

「うづう……見てなさいよ！」

というわけでの第二ラウンド。今度は、ジャージじゃなくてスカートに着替えたよ。プレゼントもアルミホイルで包んだんじゃなく、ちゃんとラッピングしたよ！と言つたら当たり前だろ、とせせら笑われた。

「じゃあもらつてよー！いいでしょ、食べてくれたつて。好きつてめいっばい込めたからさあ！」

ぐりぐりリボンで飾つた袋を押しつけると、奴はむうと渋い顔になつた。

「……この真つ黒な物体を食え、だど」

「し、失礼な。クッキーだよ！どう見てもそうでしょ」

「嘘言つな、嘘を！どつからどう見ても炭だろが！不合格！」

流石にシヨックを受けた。炭、とまで言われて泣きそうだ。いや、炭は酷い。酷いだろ。そりゃ多少焦げてるけど、炭つて！ああ、

ココア味にしたから？ 焦げてないところも黒く見えるから？

言い過ぎだ、謝れ、と応援の声がかかる。私の片思いはバレバレだから、こうして後押ししてくれる子は多い。……まあ、中には面白半分で言ってる人もいるんだけど、私は、本気ですから！

「うるせえ！ じゃ、一つやるからお前から食べよ」

佳久からクッキーが突き出されると、ギャラリィは下がった。：

…う、裏切り者めえええ。そこは嘘でも「美味しいよ」というところでしょうがああ！ キツと睨むと、すべて視線は外された。お前からあとで覚えてるよ。

すると佳久が指を三本立てた。にかつと笑いながら、

「じゃ、三択な。ありがとうって貰っておきながら後で捨てる。貰わずに突っ返す。この場でゲロを吐く」

「第四の選択、美味しいよありがとう、好きだよ、付き合おうを希望します！」

「却下！ 無茶言うな！ 大体お前、味見したか？」

う、と一歩下がる。ずいっと押しつけたクッキーを突き返され、うううう、とさらに下がる。そのまま出入口まで押し返されてしま

い  
「うううう、佳久のアホー！ バカ！ 絶対美味しいって言わせてやるんだからー！」

捨て台詞と共に教室を飛び出してしまった。私ってほんとバカ。どうして毎度、コントみたいになってんのよ。大まじめな告白なのに！

佳久は女心をわかってない。絶対ぜつたい、わかってない！ そんな奴を好きなのが一番悔しいい！

うわーん、と大泣きしながら疾走する立川の背中のため息を零した。やってくるときも唐突だが、去るときも唐突である。まるで台風だ。いや、あいつがそうじゃなかったことなんて、ここ最近ない

んだけど。

「容赦ないなー。立川も頑張ってたんだから、貰ってやりやいいのに」「いーのいーの、毎度のことだし。それに簡単に貰ったら、あいつ何も学習しないだろ。何か作ってくるたびマツズイの貰ってたところの身がもたねーよ」

遠い目になってると、周りの奴らも同じように過去へ思いを馳せたらしい。回をこなす毎にマトモへ近づきつつあるが、立川は女子力ゼロなのが一番いただけない。

うちの高校が私服なのもそれに輪をかけるのかもしれないが、なんだ、あの家着みたいな灰色の上下は。パジャマか？ あれが男子に告白する姿か？ 髪型もぼっさぼさだし、わけわかんねー。いくら家が隣の幼馴染みだからと言っても、許容範囲超えている。ついでに、我が家には中学入ってから出禁にした。さもないと、窓からやってきかねんだよ。サルみたいなんだよ、あいつ。

過去のあれこれを思い出すと頭痛がする。

「フーかあいつ！ なんで告白するのに集団でいるとこ狙うんだ？ そっちのほうで理解不能だろ！？ しかも元気いっぱい大声だぞ」心底そう言っていると、同情を込めて肩を叩かれた。

「まあ、次、もうちょっとマシになってるって。がんばれよ、ロマンチスト」

もうちょっとマシに。

実はその言葉に期待しないでもない俺がいる。実際のところ、どんだん立川はマトモの枠に収まりつつある。

ちゃんと女子やってたら、絶対可愛い部類なのだ。

そうなったとき、仕方がないから貰ってやるよ、と言ってやるつもりである。

(後書き)

最後まで読んで下さってありがとうございます。  
ラブコメSS習作でした。『ラブリーキューティ!』と同系統になります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5379t/>

---

少女、ファイト！

2011年5月25日20時25分発行